

学校型 駒ヶ根市立赤穂南小学校

共同研究者 宮島 新  
(長野市立城山小学校 教諭)

## 〈対話〉をしながら学ぶ子ども・教師 ～子どもの生活に根ざした学びの創造～

校庭の北側を少し下ると、そこには本校の宝の一つである「自然体験園」が広がっています。ここで子どもたちは、四季を通して木々や草花、川や川岸、そこに棲む生き物たちと触れ合っています。2年2組（授業学級）の子どもたちは、6月3日、この場所で宮島新先生と出逢いました。目の前で自由に遊ぶ子どもたちを笑顔で見つめる宮島先生。「この場所だからこそ、この子たちだからこそできる遊びを子どもたちは存分に楽しんでいる。一方で教師はこの場所にどんなきめきを携えて臨んでいたのだろうか。何を共に味わいたいと願ってそこに居たのだろうか」。教師の有り様を問われた宮脇教諭（授業者）は、この日から子どもの姿や自己の言動を振り返り（省察し）、綴り始めました。「みんな一緒に東ねることができたら私はやりやすい。しかしそれでは一人一人の良さを潰してしまう。一人一人が自由である一方で、やるべきところ、約束して行動するところ、そのメリハリが自分には足りていないのだろうなと痛感する」（7月〇日の省察より抜粋）。7月12日、宮脇教諭は宮島学級を参観しました。1200頭もの蚕と暮らす子どもたち、その子どもたちと宮島先生との豊かな関係性に圧倒されて帰校した宮脇教諭は、同僚に「とにかく楽しかった」と満面の笑顔で報告していました。8月5日、宮島先生を講師に職員研修会を行いました。「対話によって子どもも教師も新しい一歩を踏み出す」「対話と省察は切り離せるものではない」「深い教材研究と児童理解に基づいた授業の中に生まれる思いがけない価値ある〈出来事〉。そうした出来事は偶然からは生まれない」。ご自身の実践を根拠に語られる一語一語に、職員は自己の経験と重ねて耳を傾けました。9月27日にはウェビングマップを活用した校内授業研究会を実施します。11月8日の公開授業では、友と繋がりながら（対話しながら）、やりたいことをやりたいようにやり続ける子どもたちの姿に出合えることを楽しみにしています。



### 共同研究者 宮島先生から

学校近くの「野」で、体いっぱい遊ぶ子どもと、悩みながらも共に歩もうとする教師。〈対話〉や〈省察〉という言葉の具体は、子どもとの生活にあるということを感じずにはられません。同校の実践から、子どもの学びと教師の学びについて考えたいと思います。



### ～日程～

- ① 受付 12:30～12:50
- ② 開会行事 13:00～13:10
- ③ 研究説明 13:10～13:20
- ④ 授業公開 13:30～14:15
- ⑤ 授業研究会 14:30～15:20
- ⑥ 講演会 15:30～16:20
- ⑦ 閉会行事 16:20～16:30